

講義年月日 2007年12月10日(月)

講演者 伊藤 秀弥 氏 (立教大学新座図書館)

テーマ 学習・研究支援のための図書館サービス実現にむけて、自己改革を続ける米国大学図書館に学ぶ

講義内容

1. はじめに

メインテーマ

- ・学習・研究支援のための図書館サービス実現にむけて、自己革新を続ける米国大学図書館のさまざまな取り組みを紹介し、今後の図書館業務の参考にしてほしい。
- ・仕事内容や課題は類似
- ・危機感 ユーザーの視点、学習・研究支援

2. イリノイ大学モンテンソンセンター・プログラムの概略

- ・毎年世界各国から10数名の図書館員が参加する8週間のプログラム
- ・大学院教員・センターの講師による講義
- ・イリノイ大学図書館の各種業務の説明
- ・各種図書館見学(大学図書館、公共図書館、図書館関連団体等)
- ・参加者によるプレゼンテーション、プロジェクトと課題

3. 米国大学図書館のさまざまな取り組み事例の紹介

利用者中心の視点

ミッション・ステイトメント

大学図書館、公共図書館を問わずに館内、Webサイトに明示。利用者へのメッセージ

OCLCの標語 “The User is always right!”

オハイオ州立大学図書館の標語 “One Click”

Webサイトの戦略的活用

利用者はどこにいるのか、学び方は多様であることを意識すること

大学の統一形式のもとで、各部局ごとに速やかに更新(館内掲示、パンフレットより早く)

デジタル・レファレンス(Ask a Librarian, chat、主題別のデータベース一覧の提示、パスファインダー)

バーチャル図書館の試行

学習支援に積極的に関与する図書館

学部・教員との連携の重要性

カリキュラムに不可欠な図書館として存在

シラバスが図書館Webサイトに掲載。シラバスで指定された図書を図書館で管理。

Course Resource

授業(クラス)で利用する資料をまとめて図書館Webサイトにおいておく。

インターライブラリーローン

情報リテラシー教育について

Augustana college の事例

- ・年間で300回実施
- ・学部との緊密な協力関係
- ・レベル別に各種コースを準備。学生は段階的に履修できるようになっている。

イリノイ大学附属高校の事例

徹底した「情報倫理」、「活用のルール」、「著作権」の授業を展開(ケースメソッド方式)

学習空間としての図書館

入館ゲートがない(ブックプロテクトはあり)

ペットボトル(蓋のついた飲み物)は可

カフェテリア

利用者にとって快適な図書館空間を意識

図書館間連携（イリノイ州の場合）

I-Share・・・イリノイ州内の大学図書館、公共図書館コンソーシアム

CARL・・・大学図書館、研究機関の学術コンソーシアム

4. 図書館活動を支える制度と人（図書館員の役割）

図書館運営

- ・ ミッション・ステイトメント
- ・ 中長期計画
- ・ 各自のジョブ・ディスクリプション

図書館 Web サイトに掲載。公開。

図書館運営（予算）

- ・ コストカットが求められている
図書館員の採用減、目録の外部委託、学生スタッフの削減
- ・ 外部資金の獲得に積極的
図書館予算の30%がファンドによるもの（個人の寄付がそのうち70%を占める）
図書館員は財源の獲得、財団を探したり企画書作成や交渉方法を身につける必要がある。
- ・ 予算の獲得
公共図書館、大学図書館で一般的なこと
カフェテリアの運営
図書館グッズの販売
不要本を売る
- ・ 大学図書館員に期待するもの
分野についての深い知識があること
コンピュータやニューテクノロジーなど最新の技術に対応できること
学生や教員に教える力があること
マーケティング力があること
図書館をブランド化できること
すばやく考えを発展開発できること

5. おわりに（我々が学ぶものは何か）

- ・ 図書館はなぜ必要なのか、図書館は何をしていて、何に貢献しているのかを図書館内外に知らせ、財政の裏づけをするために日常的に努力をしている。
- ・ そのための実務的な戦略方法を日常的に研究している。
- ・ ユーザー・フレンドリーな図書館を目指しての様々な取り組み。